

# 野洲市須原水害履歴マップその②(全3枚)

(平成26年8月1日須原公民館で行った聞き取り調査に基づき作成、参加者7名)

## ~昭和28年台風13号の様子~

### 天候・状況

- ・23時ごろの決壊後須原に水が来たのは30分以上後。
- ・日中の雨は浸水時には止み、強い北風が吹いていた。
- ・破堤の波が月明りで見えた。
- ・堤防が切れたことが分かるほどの音が響いた。

### 伝達

#### 住民避難

- ・支所に詰っていた消防団員が決壊の様子を見て各集落に電話で連絡した。
- ・決壊の情報は口コミで集落内に周知した。
- ・当時は各戸には電話の設置はなかった。
- ・主に川上の人々が中学校まで田舟で避難した。

#### 水防活動

- ・須原の消防団は井口及び下堤の堤防で見回りを行った。
- ・下堤側の稲荷神社(当時有り)で会議が行われ、消防団が集まり水防活動にあたった。
- ・越流や破堤の恐れのある箇所には土嚢積みや畳で防いだ。
- ・土嚢積みには20~35歳の若い世代の消防団員が従事した。

### 被害

#### 人的被害

- ・六条で1人、安治で2人が亡くなった。
- ・流水に流され、難を逃れるため流れてきた木にしがみついた。そのあと墓標につかまって助かった人もいると聞いた。

#### 物的被害

- ・大黒柱が動いたり、履物が流れた。
- ・水路は水浸しで、水路脇の道路も冠水した。
- ・床上約40~50cm浸水の箇所もあり、床上浸水30戸、床下浸水50戸程度。
- ・田んぼがすっかり浸かっていた。

### 水害後

- ・2~3日後、野洲川からきれいな水が道路沿いに流れ込み、そこで障子を洗った。
- ・たまったへドロを洗い出す作業があった。
- ・ブルドーザが地区で初めて導入された。
- ・当時一番困ったのが飲料水の確保で、水を入れた桶を吉川から田舟で運んで確保した。
- ・田んぼに流れてきた墓標が水害後5~6年は残されたままだった。

- ① 苗田神社
- ② 唯念寺
- ③ 西徳院
- ④ 須原自治会館
- ⑤ たちばな屋
- ⑥ 中原酒店

須原範囲

野洲川  
破堤箇所

国道477号線の盛土で水が跳ね返され、その後国道を越え地先に流入。

破堤により溢れ出た水が30分以上かけて流れてきた。



苗田神社…A

牛を田船に乗せ神社の境内に運んだ。(境内に十分なスペースがあるため。)



西徳院…B

住民の避難所として利用された。寺の階段の下から2段目まで水があふれた。寺の前の橋には3艘の田舟が突っかった。



水害時の須原…C



水害時の須原…D